

資料

○ 待機児童解消の状況等について

保育量の拡大については、「新！ひのっ子すくすくプラン」（平成27年度～令和元年度）に基づき進めてきました。

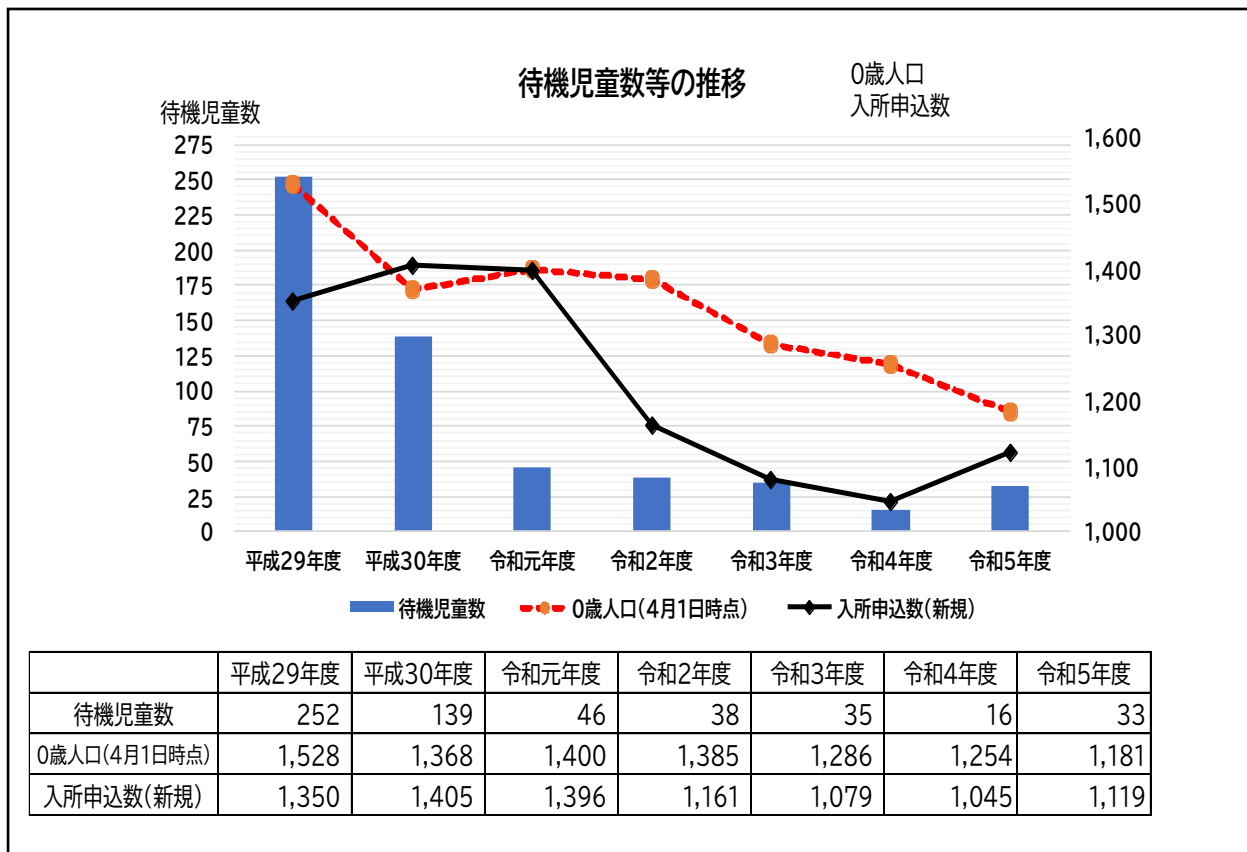
令和5年4月時点で、待機児童数は前年比微増となっておりますが、空いている施設があるのに待機児童が存在するという、ミスマッチが生じています。

こうしたミスマッチ解消を進めると共に、引き続き未就学児童人口や就労意向の変化等に注視しながら、利用定員弾力化による定員拡大、緊急1歳児受入事業の定員拡大など、必要に応じて待機児童解消に向けた対応を検討してまいります。

(1) 待機児童数等の推移

令和元年度までの保育施設整備により、平成29年4月1日時点で252人の待機児童数は、令和5年4月1日には33人となっております。（前年比17増）。前年比増の要因としては、申込数増（1,119件（前年比74件増））及び募集人数の減（808人（前年比64人））が影響しております。募集人数の減については、一時的要因によるもの、また、近年の日野市の0歳児人口は減少傾向で、今年度1,181人まで減少していることより、今後待機児童数は減少傾向にあるものと推測しております。

社会情勢の変化等にも十分注視し、今後の保育需要を見極めていく必要があります。



(2) 人口動態について（企画経営課資料より）

① 国や東京都、日野市で起きている事

【東京都】

- ・東京都の人口は、2021年2月に24年8か月ぶりに人口減少に転換
- ・2022年（2021中）には、コロナの影響もあり48,592人の人口減少となった。
- ・合計特殊出生率は1.08

【日野市】

- ・日野市は過去20年程度転入超過による人口増加の傾向にある。
- ・2017年から死亡数が出生数を上回る自然減となってからは、社会増自然減の状況による微増が続いている。
- ・2021年の合計特殊出生率は1.24と都内では8番目で、平均より高い推移だが、出生数は、2022年（2021年中）は1,264人で前年比9%程度減少。
- ・人口の動きとしては、10歳代と20歳代前半の転出入の動きが特徴的で、移動は近隣自治体間の傾向にある。

② 今後の人口

- ・人口動態については、現状の傾向が一定程度続く場合でも、2025年～2030年頃に転換期を迎え、継続的な人口減少が緩やかに始まるものと推測。
- ・日野市は人口変動要因が社会増減の影響度が強い為、宅地開発などの外部的要因によって短期的な動きに影響が生じる可能性がある。